

自分や家族の食生活を見直して、 生活習慣病を予防しよう！

令和6年11月7日（木）小牧市保健センター

① 目標体重を知ろう

適正なエネルギー量や食事バランスは、一人ひとり異なります。まずは、自分の「目標体重」を把握することが大切です。

BMIとは?

身長と体重から算出される肥満度を表す体格指数（国際的な指標）

$$\text{BMI} = \text{体重(kg)} \div \text{身長(m)} \div \text{身長(m)}$$

18.5未満：低体重 18.5-24.9：普通体重 25.0以上：肥満

BMI22

統計的に最も病気になりにくい体重

目標とするBMI



18~49歳 : 18.5~24.9

50~64歳 : 20.0~24.9

65歳以上 : 21.5~24.9

BMIを使って、自分の目標体重を計算してみよう！

身長(m) × 身長(m) × 目標とするBMI

(例) 50歳、160cmの方

$1.6 \times 1.6 \times 20.0 = 51.2$

$1.6 \times 1.6 \times 24.9 = 63.7$

目標体重は、
51.2 ~ 63.7kg



② 最適なエネルギー量を知ろう

年齢と活動量から、推定エネルギー必要量を求めることができます。まずは、自分の「身体活動レベル」を把握しましょう。

低い（Ⅰ）	ふつう（Ⅱ）	高い（Ⅲ）
生活の大部分を座って過ごすことが多い。	通勤や買い物での移動、家事、軽いスポーツを行う習慣がある。	立ち仕事や移動が多いお仕事、活発な運動習慣がある。
		

推定エネルギー必要量 (kcal/日)

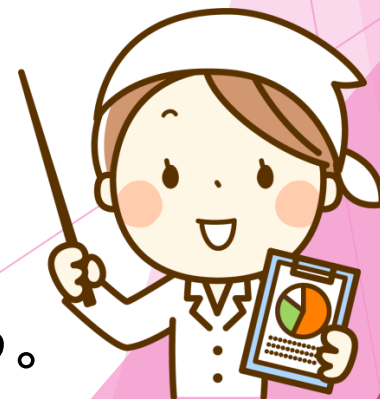
性別	男性			女性		
身体活動 レベル	低い (Ⅰ)	ふつう (Ⅱ)	高い (Ⅲ)	低い (Ⅰ)	ふつう (Ⅱ)	高い (Ⅲ)
18~29歳	2300	2650	3050	1700	2000	2300
30~49歳	2300	2700	3050	1750	2050	2350
50~64歳	2200	2600	2950	1650	1950	2250
65~74歳	2050	2400	2750	1550	1850	2100
75歳以上	1800	2100	-	1400	1650	-

【現在の体重が目標体重の範囲内】

表のエネルギー量を目安に、食事量をとみましょう。

【現在の体重が目標体重の範囲外】

エネルギー量を調整するか、身体活動量を増やしましょう。



③ 食事の目安量を知ろう

「手ばかり栄養法」を使うと1日に必要な食事の目安量が簡単にわかります。

手ばかり栄養法とは？

「自分の手のひら」を使って食材をはかり、1日の食事量を決める方法です。自分の手のひらを使うことで、自分にあった食事量を知ることができます。



④ 献立にして考えてみよう

副菜

野菜・きのこ類・海藻
などのおかず
小鉢に1~2皿

主菜

肉・魚・卵・大豆製品
などを手のひら1つ分

汁物

塩分が多いため、1日1杯
まで。具沢山にすれば副
菜の代わりになるよ

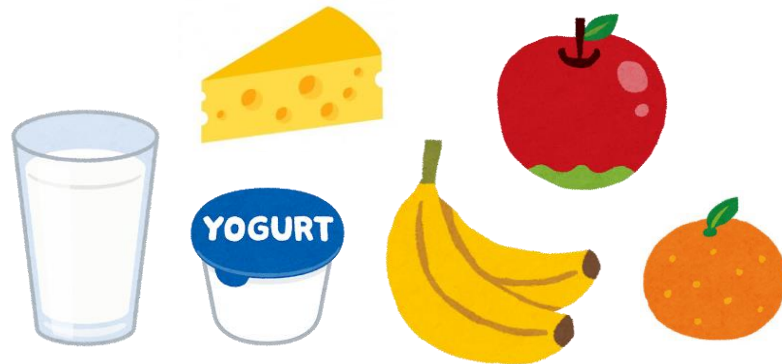
主食

ご飯茶碗に軽く1杯



- 「主食・主菜・副菜」が揃うように意識しましょう。
- 「牛乳・乳製品」や「果物」を足すとさらにバランスが整います。

間食や食後の
デザートに！

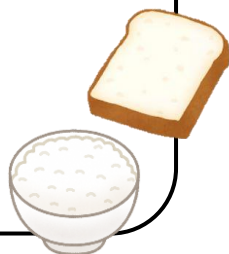


⑤ 自分の食事を振り返ってみよう

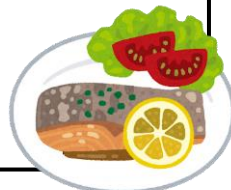
昨日の食事のうち、どれか1食を思い出して、その食事に近い「食事カード」を並べましょう。

主食・主菜・副菜は、そろっているかな？

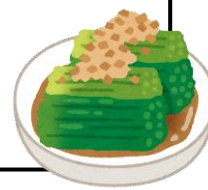
主食



主菜



副菜



汁物



間食・デザート



不足しているもの、
とり過ぎているもの
は、ありましたか？



食事の量や内容だけではなく、

食べ方も大切です！

① 朝食は必ず食べる

朝食は体を目覚めさせ、生活リズムを整える働きがあります。

《朝食でとりたい栄養素》

- 脳のエネルギー源になる「**炭水化物**」
- 体温や代謝をあげる「**たんぱく質**」



今まで朝食を抜いていたのなら、まずは何か1つ食べることから始めます。そして、朝食を食べる習慣が定着してきたら、バランスを意識しましょう。

② ゆっくりよく噛んで食べる

満腹中枢が刺激されるには、食べ始めてから15～20分ほどかかります。早食いは、食べ過ぎの原因や胃腸に負担をかける原因となります。

《噛む回数を増やす工夫》

- 具材を大きめに切る
- 加熱しすぎない
- ごぼう・れんこんなどの根菜類、ナッツ類など、
歯ごたえのあるものを加える



③ 決まった時間に食べ腹八分を意識する

食事と食事の間隔が空くと「ドカ食い」や「まとめ食い」の原因になり、一度の食事量が多くなりがちです。規則正しく食事を取りましょう。毎日、決まった時間に食事をする事で、体のリズムも整います。

また、食べ過ぎは消化に時間がかかり、胃に負担がかかります。肥満や糖尿病など、生活習慣病のリスクも上がります。「もう少し食べたいな」と感じるところで、食事を終わめましょう。

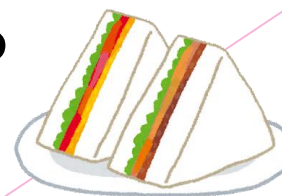


④ 遅い時間での食事は控える

夜は活動量や消費エネルギー量が減り、余分なエネルギーが体脂肪として蓄積されやすい。また、翌朝の食欲低下に繋がり、朝食が食べられない原因にもなります。

《夕食の時間が遅くなってしまう場合》

- 糖質・脂質の少ないもの、消化によいものを選ぶ
- 油を使用する調理法（揚げる・炒める）よりも、
焼く・茹でる・蒸すなどの調理法を意識する
- 捕食を活用し、夕方に主食を取り入れる



⑤ 嗜好品はとりすぎない

お菓子やジュース、お酒などの嗜好品は、日常的な食事と異なり栄養摂取を目的としない。食生活の中で、楽しみとして適度にとりましょう。

《間食》



- 1日 200kcal程度
- 時間と量を決める
- 栄養補給になるものを選ぶ

《お酒》



- 空腹で飲まない
- 食事と一緒に飲む
- 度数が高いものは薄める
- 週2日は休肝日をつくる

1日の適正な飲酒量は？

答. 純アルコール量 20g 程度



※ 純アルコール量とは、**お酒に含まれるアルコール量**のこと。

女性はアルコールの分解速度が遅く、アルコールの影響を受けやすいため、1/2~2/3程度が望ましい。

お酒の種類	目安量
ビール	中びん1本 (500ml)
日本酒	1合 (180ml)
チューハイ	アルコール濃度7%のもの1缶 (350ml)
ワイン	グラス2杯 (200ml)
焼酎	グラス1/2杯 (100ml)
ウイスキー	ダブル1杯 (60ml)

純アルコール量 (g) =

飲む量 (mL) × アルコール濃度 (度数/100) × 0.8 (アルコールの比重)

例. ビール 500mL (5%) の場合

$$500(\text{mL}) \times 0.05 \times 0.8 = 20 (\text{g})$$



《生活習慣病のリスクを高める飲酒量》



1日当たりの純アルコール摂取量が

男性 40g 以上

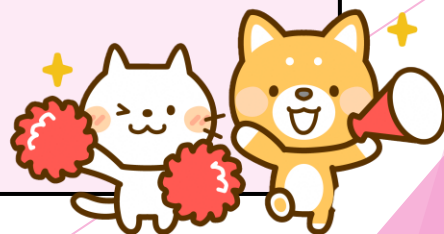
女性 20g 以上

生活習慣病とは？

食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣が病気の発症や進行に関与する症候群のこと。

以前は「成人病」という名称で、加齢とともに発症・進行するものとされていましたが、実際は運動不足、飲酒、喫煙、不規則な生活など、子どもの頃からの生活習慣が原因となり発症することがわかり「生活習慣病」と呼ばれるようになりました。

《思いつくものを書いてみよう！》



高血圧

高血圧とは、心臓から血液が全身に送り出される時、血管に異常に高い圧力がかかる状態のこと。心臓や血管に負担をかけるため、高血圧の状態が続くと動脈硬化が進み、狭心症、心不全、脳出血などの病気をもたらします。

《高血圧の診断基準》

最高血圧（収縮期血圧）140mmHg 以上

かつ/または

最低血圧（拡張期血圧）90mmHg 以上



《高血圧の原因》

塩分のとりすぎ、運動不足、肥満、ストレス、喫煙、
過度な飲酒、加齢など

《食生活のポイント》

- 1日の食塩摂取量を6g未満に抑える
- 血圧降下作用のある栄養素「カリウム」を多く含む
野菜・果物・海藻類などをとる

高血圧は自覚症状がほとんどありません。
普段から血圧を測ることや健診を受けることが大切です！



脂質異常症

脂質異常症とは、血液中の脂質の値が基準値から外れた状態のこと。動脈硬化を進行させ、脳梗塞や心筋梗塞などの病気につながる危険があります。

《脂質異常症の診断基準》

- 中性脂肪 150mg/dL 以上
- LDLコレステロール 140mg/dL 以上
- HDLコレステロール 40mg/dL 未満



《脂質異常症の原因》

エネルギー量のとりすぎ、飽和脂肪酸のとりすぎ、
運動不足、ストレスなど

《食生活のポイント》



- 砂糖、果物、ジュースなどの糖質をとりすぎない
- お肉の脂身を控え、魚油や植物性油をとる
- 「食物繊維」を多く含む野菜・大豆製品・海藻・きのこ類を
多くとる
- 茹でる・蒸す・焼くなど、油を使わない調理法を選ぶ

糖尿病

糖尿病とは、インスリンの分泌不足や作用不足によって、血液中を流れるブドウ糖（血糖）が増えてしまう病気のこと。血糖値が高い状態を放置すると、血管が傷つき、失明、腎不全、足の切断など、より重い病気につながります。

《糖尿病の診断基準》

- 空腹時血糖値 126mg/dL 以上
- 随時血糖値 200mg/dL 以上
- HbA1c 6.5% 以上

HbA1cとは、過去1～2ヶ月の血糖値の平均を反映します。

血液検査の数日前の食事や運動などの影響を受けません。



《糖尿病の原因》

1 型糖尿病

自己免疫によって、膵臓のインスリンを出す細胞（ β 細胞）が壊され、インスリンがほとんど出なくなるため、血糖値が高くなる。

2 型糖尿病

遺伝や食べすぎ、運動不足、肥満、ストレスなどの生活習慣によって、インスリンが出にくい、効きにくいことで、血糖値が高くなる。



《食生活のポイント》

- 1日3食規則正しく食べる
- 食べる順番に気をつける（副菜 ➡ 主菜 ➡ 主食）
- 「食物繊維」を含む食材を積極的にとる

肥満

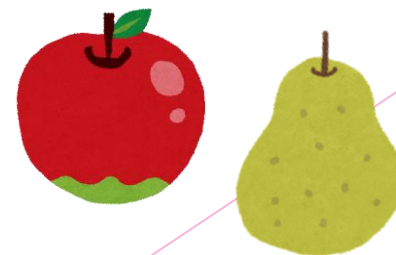
肥満とは、脂肪が過剰に蓄積した状態のこと。BMI 25 以上の場合が肥満に分類されます。生活習慣病をはじめとして、数多くの疾患の原因になります。

内臓脂肪型肥満（リンゴ型肥満）

内臓の周りに脂肪が蓄積されることで、下半身よりもお腹周りが大きくなる。男性に多い。生活習慣病のリスクが高くなる。

皮下脂肪型肥満（洋ナシ型肥満）

皮下組織に脂肪が蓄積される。腰まわりや太ももなど、下半身を中心に皮下脂肪が多く溜まる。女性に多い。



メタボリックシンドローム

メタボリックシンドロームとは、内臓脂肪型肥満に高血圧・高血糖・脂質代謝異常が組み合わさった状態のこと。

※ 単に腹囲が大きいだけでは、メタボリックシンドロームにあてはまりません。

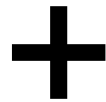
《メタボリックシンドロームの診断基準》

以下のうち**2つ以上**に当てはまる

【腹囲】

男性 85cm 以上

女性 90cm 以上



【高血圧】

最高血圧 (収縮期血圧) 130mmHg 以上
かつ/かまたは
最低血圧 (拡張期血圧) 85mmHg 以上

【高血糖】

空腹時血糖 110mg/dL 以上

【脂質異常】

中性脂肪 150mg/dL 以上
かつ/または
HDLコレステロール 40mg/dL 未満



《生活習慣病の予防ポイント》



- 自分に合った摂取エネルギー量をとる
- 1日3食バランスよく食べる
- 運動習慣をつけて、活動量を上げる
- 禁煙する
- 節度ある適度な飲酒を心がける
- 自分に合った方法でストレスを解消する
- しっかり睡眠時間を確保し休養する



自分や家族の健康のために

無理のない範囲で 1つずつ始めてみましょう。

